



2024 年

11 月 第 1・2 週 の 主 日 礼 拝 説 教 要 約

・ 11 月 3 日 : ルカ福音書 17 : 11 - 19 .

『 別け隔てなき救い 』

・ 11 月 10 日 : マルコ福音書 10 : 46 - 52 .

『 途上の療治 』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

《 別け隔てなき救い 》

ガリラヤとサマリアの間にはエストラエロンという平原が広がっています。今日、登場する十人の病人はおそらくその平原のどこかの村で、共同生活(?)を営んでいたようです。これが意味するところは、当時のハンセン病の病人が社会から隔離生活を強いられていたことが考えられます。ガリラヤとサマリアの両方の地域から押し出されると、必然的に中間地点にあるこの平原のどこかで合流することに相成りそうです。ある日、イエスと弟子たちがそこを通りかかると、少し離れた所から声がします、

イエス様、先生、私たちを憐れんでください。(17:13)

その日、イエスはガリラヤを出てエルサレムに向かう途中でした。こんな僻地の村にもナザレのイエスの名声は広まっていたようです。過ぐる日、イエスは弟子たちにこう語ったことがありました。

誰でも求める者は受け、探す者は見つけ、叩く者には開かれる。

(ルカ福音書 11 : 10)

たとえそれがイエスの直弟子ではなく、通りがかりの病人であったとしても、神キリストはその者を見捨てることはありません、イエスは間髪を入れず彼らに応じます、

行って、祭司たちに体を見せなさい。(17:14)

イエスにそう言われた瞬間、彼らの“身体”には急激な変化が生じます。皮膚の張りは潤い、そよ風を肌に感じとり、触覚は和らぎ、足腰にも柔軟性が戻り、思う間もなく、それぞれの管轄の祭司の許へと歩き始めていたのです。病気の治癒を証明するために。一件落着…、と思いきや、一人のサマリア人が取って返し、イエスの足元にひれ伏し感謝したのです。残りの九人の民族構成は不明です。察するところ彼ら中にはイエスと同じユダ

ヤ人が多くいたようです。

ルカ福音書は、イエスの“良きサマリア人”の譬え（実話？）の中でも、心優しい“隣人”であり、神の御旨に適い永遠の命を受け継ぐサマリア人の存在を、ユダヤ人の律法の専門家に教えたことがありました。これはユダヤ人の、他民族に対する偏見を否定するためでもあったようです。譬えではなくとも、現実には起きたことでも、サマリア人の心の内なる謙虚さが証明されています。

立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。

(17:19)

イエスは、真の神を信ずる信仰には“民族の壁”がないことを、ここでも証されたのでした。

《 途上の療治 》

ガリラヤを出て、イエスは十字架にかかるためにエルサレムに向かうその途上にいます。目的地（エルサレム）の20キロほど手前にエリコの街があります。後日、子驢馬の背に揺られて「エルサレム入場」を果たす数日前のことです。イエスはこの街の門で立ち止ります。そこには全盲の物乞いの人が座り込んでいます。

「一行は…」ではじまる記事を読む限り、後から一行に加わる“この盲人（！）”もさることながら、この時期イエスは弟子たちや支持者らと共に行列をなして渡り歩き、南下しつつエリコに到着したようです。

長崎の26聖人は、初めは24人で関西を出発しましたが、途中で路傍の2名が志願してこれに加わり26人となったそうです。同様に、この頃のイエスは多人数を引き連れていたと考えられます（10：48他）。最後に一人となり処刑される一週間ほど前のことです。エリコにはこの時、癒される盲人の他にも、ルカ福音書によると、現地の徴税人のザアカイとの出会いもありました。

さて、エリコの街の門に差し掛かった時にイエスは背後からの声に呼び止められます、

ダヴィデの子イエスよ、私を憐れんでください。(10:47)

彼はユダヤ人のようです。この声の主(ぬし)に対し「多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます… (10:48)」憐れみを乞うたのでした。

するとイエスは一行に指示を出し、「あの人を呼んできなさい(10:49)」と言うと、「盲人は上着を脱ぎ棄て、躍り上がって(10:50)」イエスのところに来ました。イエスが彼の願望を問い質すと、「先生、また見えるようになることです(10:51)」と答えます。そうです彼は以前はまだ目が見えていたのです。古代ギリシャ語の研究の成果として、この人の目が生まれつきのものではなかったという新事実が判明します。彼の名はティマイの子のバルティマイ。イエスは彼に命じます。

行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。(10:52)

しかし、彼には、とりたてて“行き場”がなかったのかどうかはいざ知らず、バルティマイは「すぐに見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った(10:52)」のです。つまり一向に加わりエリコからエルサレムへと向ったのでした。

数日後、彼はイエスに癒されたその目でイエスの十字架を“目撃”することになりそうです。